

第4章 主体別取組みの中間評価と今後の方向性

1. 中間目標の達成状況と中間評価

平成21年度から30年度の10年間の計画期間とした本計画は、基本理念を実現するために5つの柱を設定しています。この柱ごとに施策の進捗を見るための指標を設定し、目標達成に向けた取組みを進めてきました。本計画の着実な推進には、公正かつ適正に評価を実施する必要があるため、中間年度にあたる平成25年度には、この指標の達成状況について、中間評価を行いました。

評価は、柱ごとに所管課による庁内評価と半田市環境基本計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）による市民評価を行い、総合的な評価としてまとめています。庁内評価では、施策ごとに当初設定した施策の進捗を見る指標（中間目標値）と現状値を比較し、現状がどのような状態であるか4段階の成果指標達成度基準で表し、市民評価では、成果指標の達成状況や各施策の実施内容を基に4段階の総合評価を実施しました。

また、PDCAサイクルの確立が不可欠であるため、策定委員会からの評価コメント（意見・提案）を踏まえて、「評価できる点」、「今後の課題及び期待したい点」を取りまとめ、それぞれの事業にフィードバックできるようにしました。

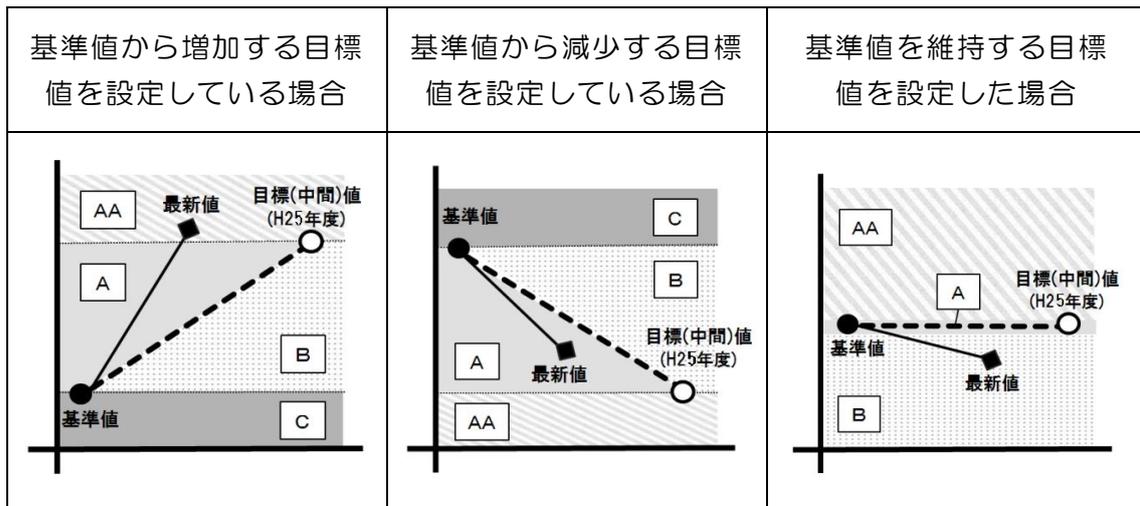
1) 評価基準について

庁内評価は、現状がどのような状態にあるかを見るため、4段階の達成度基準を設けます。

■ 成果指標達成度基準

達成度	マーク	説明
AA		目標値（中間値）を達成しているもの
A		基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方（達成方向）であるもの
B		基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方（未達成方向）であるものの、基準値からは向上、改善しているもの
C		最新値が、基準値よりも下方しているもの

※次頁の図を参考に現状がどのような状態にあるか選定する。



市民評価は、成果指標達成状況や実施内容などから4段階の総合評価とします。

■評価基準

市民評価	マーク	説明
AA		良好です
A		概ね良好です
B		改善・見直しの必要があります
C		改善・見直しを行い一層の努力が必要です

2) 総括評価

本計画が策定されてから5年目を迎え、策定時からの環境状況の変化や目標値に対する事業の進捗状況が徐々に明確になってきました。評価は、計画策定時に定めた全17項目30指標（再掲含む。）において、成果指標達成状況や実施内容などを総括的に判断し、5つの柱ごとに4段階で市民評価を行った結果、「2. 地球にやさしいまち」、「3. 自然にやさしいまち」、「4. ふるさとにやさしいまち」は「AA」の高い評価結果となり、「1. ひとにやさしいまち」は「A」、「5. 参加・協働のまち」は「B」のやや低い評価となりました。

計画策定後に起きた東日本大震災の影響を受け、市民の省エネ意識が高まる中、家庭や企業における節電が定着し、エコライフの促進につながっています。地域における生活環境問題を解決していくためには、市民及び事業者がより環境負荷の少ない生活や事業活動を実践することが重要です。具体的にどのような環境配慮や工夫を行っていくか、市民・NPO・事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、各主体間の情報共有、情報交換の機会や場を創出し、連携して行動していく必要があります。

今後も市民や事業者、NPO等の活力を取り込みながら、次世代に良好な環境を引き継ぐために、本計画の着実な推進や新たな発想による新規事業の展開を強く要望します。

柱	項目数	指標数	成果指標達成数				評価
			AA	A	B	C	
1. ひとにやさしいまち	4	13	6	0	4	3	A
2. 地球にやさしいまち	5	7	6	0	1	0	AA
3. 自然にやさしいまち	3	3	3	0	0	0	AA
4. ふるさとにやさしいまち	2	2	2	0	0	0	AA
5. 参加・協働のまち	3	5	1	0	2	2	B
計	17	30	18	0	7	5	—

3) 個別評価

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	中間目標 (H25)	備考
①	大気汚染に係る環境基準達成率 (%) ・二酸化硫黄 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 ・光化学オキシダント ・ダイオキシン類	100 100 75 0 100	100 100 100 100 100	全測定地点のうち、環境基準を達成している測定地点の割合。
②	河川のBOD濃度 (mg/ℓ) ・神戸川 ・矢勝川 ・阿久比川 ・十ヶ川 ・稗田川	7.6 6.8 2.5 2.0 11.1	6.3 5.9 基準値維持 基準値維持 8.1	環境基準 (5mg/ℓ) が適用されるのは阿久比川のみであるが、他の河川も環境基準を目標とする。
③	公共下水道 (%) ・人口普及率 ・整備率 (市街化区域内)	75.7 75.8	88.5 92.9	計画策定時には27年度に市街化区域内の整備完了予定であったが、30年度に先送りになった。
④	(アンケート) 悪臭がなく空気がきれいと思う市民の割合 (%)	42.2	60	



(指標・目標の達成状況)

指標 No.	H20	H21	H22	H23	H24	中間目標達成状況	
①	100 100 100 0 100	100 100 100 0 100	100 100 100 0 100	100 100 100 0 100	100 100 100 0 100	AA AA AA C AA	😊 😊 😊 😞 😊
②	8.2 6.6 2.0 2.1 10.1	7.9 6.7 2.6 2.2 9.7	10.4 8.1 4.6 4.2 11.3	7.0 8.7 2.4 1.9 8.7	8.8 8.2 2.0 1.9 9.7	C C AA AA B	😞 😞 😊 😊 😞
③	78.1 77.8	81.4 79.8	82.4 80.9	83.4 82.0	84.2 82.9	B B	😞 😞
④	42.2 (H19)	—	—	—	51.2 (H25)	B	😞

市民評価

市民評価 (意見・提案)

《評価できる点》

- 大気汚染に係る環境基準は概ね達成されている。
- 浮遊粒子状物質が改善されている。
- 下水道の普及率は地道に増加している。

《今後の課題及び期待したい点》

- 大陸から飛来するPM2.5の測定を希望する。
- 光化学オキシダントは、県や国のレベルでの対策を推進するよう働きかける必要がある。
- 神戸川、矢勝川、稗田川は水量が少ないこともあり改善は難しい。
- 河川の水質調査の結果を市報等により、わかりやすく公表することが必要である。特に流域のコミュニティでの環境活動の推進につながることを期待する。
- 河川の水質は、下水道の接続率によるところが大きく、計画的に普及に努めていく必要がある。
- 臭気は臭いの元を断つ研究が進んでおり、畜産農家と共存できるように進める必要がある。

2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	中間目標 (H25)	備考
①	1世帯当たりの年間使用量 ・電気(kWh) ・都市ガス(m ³)	5,780 408 (H18)	5,500 390	電気・ガスともに年1%削減として設定
②	環境配慮型住宅用設備の導入件数(件) ・太陽光発電システム ・高効率給湯器	305 1,636	550 4,500	年50件増として設定 年500件増として設定
③	1人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日)	1,090	1,010	ごみ排出量/(人口・365日)
④	リサイクル率(%)	20.3	24	総資源化量/ごみ排出量
⑤	環境配慮協定の締結件数(件)	0	15	



(指標・目標の状況)

指標 No.	H20	H21	H22	H23	H24	中間目標 達成状況
① ・電気 ・都市ガス	5,622 390 (H19)	5,477 395 (H20)	5,816 397 (H21)	5,526 401 (H22)	5,436 405 (H23)	AA 😊 B 😐
② ・太陽光発電システム ・高効率給湯器	358 2,204	462 2,873	737 3,566	1,086 4,249	1,428 5,071	AA 😊 AA 😊
③ ごみ排出量	1,073	1,033	1,010	996	992	AA 😊
④ リサイクル率	19.8	19.2	19.1	24.9	24.1	AA 😊
⑤ 環境配慮協定の締結 件数	0	0	0	0	69	AA 😊

市民評価



市民評価(意見・提案)

《評価できる点》

- 省エネは着実に進んでいるので、継続して啓発していく必要がある。
- 時代の趨勢もあり太陽光発電システムや高効率給湯器は順調に伸びている。
- 市民1人1日当たりのごみ排出量は着実に減少している。行政の努力と市民の環境意識の高まりを評価する。

《今後の課題及び期待したい点》

- 温室効果ガスは温暖化現象の原因となっているため、抑制のための具体的指標を持ち、市民に分かりやすい行動を提示した方が良い。
- ESD³⁾国際会議の開催に合わせ、「安全」が確保されることを前提とした「低炭素・循環・自然共生」の街づくりへの共通理解と、実践への取組みを推進することが大切である。
- ごみ減量は、ごみが出にくい商品を作る企業と、それを選ぶ市民の両方が継続努力する必要がある。
- もったいないバザールのような取組みを自治区や中学校区で行えるようにする。

注1) ESD(持続可能な開発のための教育) : Education for Sustainable Development の頭文字を取ったものです。環境、貧困、人権、平和、開発といった、現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。

3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

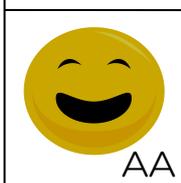
No.	指標名	基準値 (H19)	中間目標 (H25)	備考
①	1人当たりの公園・緑地面積 (㎡/人)	5.8	6.0	※総合計画の目標値より設定7.0(H27)
②	耕作放棄地の面積(ha)	※48.2 (H20)	基準値維持	※61ha(H19)は国が市内全域を対象とした面積だが、今後は市街化調整区域のみを対象とすることとなったため、48.2(H20)を基準値とした。
③	市民農園の面積(㎡)	9,550	12,000	



(指標・目標の状況)

指標 No.	H20	H21	H22	H23	H24	中間目標 達成状況
① 公園・緑地面積	5.8	5.8	5.8	6.2	6.2	AA 😊
② 耕作放棄地面積	48.2	45.3	36.3	33.6	29.3	AA 😊
③ 市民農園面積	8,870	11,384	19,796	24,863	26,297	AA 😊

市民評価



市民評価(意見・提案)

《評価できる点》

- 新規公園整備の目途がたっており、緑地面積の伸びが予想される。
- 身近な自然環境の維持・向上が図れ、街づくりが前進している。
- 耕作放棄地を活用し、市民農園を開設することで、農地の有効利用、緑地の確保が確実に実施されている。

《今後の課題及び期待したい点》

- 緑化面積は増えているが、生物多様性という部分では分かりにくく、県が指定している絶滅危惧種の生息数を目標として持つことも大切である。
- 台風や落ち葉対策のため、市街地の街路樹が紅葉する前に枝打ちされることも見かけるが、その場合においても、景観への配慮が必要である。
- ため池の活用については、様々な立場の人が集まって、その将来について考えるべきである。
- 多自然型工法や親水性に配慮した河川・ため池を増やし、有効活用を図る。
- 公共施設において、樹齢数十年以上の樹木が施設や道路の整備によって伐採されるのは残念であり、環境保全・景観保全の観点から担当部署間による合意形成が必要である。

4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	中間目標 (H25)	備考
①	(アンケート) まち並みがよく調和している と思う市民の割合(%)	31.7	40	
②	※再掲 1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	6.0	※総合計画の目標値より設定 7.0(H27)



(指標・目標の状況)

指標 No.	H20	H21	H22	H23	H24	中間目標 達成状況
① まち並みがよく調和している と思う市民の割合	31.7 (H19)	—	—	—	41.1 (H25)	AA 😊
② 公園・緑地面積	5.8	5.8	5.8	6.2	6.2	AA 😊

市民評価



AA

市民評価（意見・提案）

《評価できる点》

- 半田には多くの歴史、文化が有り、今後も次世代に分かりやすく伝承することが大切である。
- 新規公園整備の目途がたっており、緑地面積の伸びが予想される。

《今後の課題及び期待したい点》

- 七本木池では、公園整備に支障となる樹木を伐採しているが、人工的な公園にならないよう緑化の整備が必要であり、また、他の新規公園整備においても自然を保全し、緑を活かした公園づくりを進めてほしい。
- 景観形成重点地区の隣接地域において、建築される民家や商業施設など景観形成重点地区と調和がとれるような制度の検討が必要でないか。
- 雁宿公園の再整備には歴史的な背景を最大限に考慮して実施すべきである。

5. みんなで環境を守り育てるまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	中間目標 (H25)	備考
①	こどもエコクラブ 登録人数の割合(%)	6.0	8	こどもエコクラブ登録人数 /市内小学生の人数
②	アダプトプログラム ^{注2)} ・登録者数(人) ・登録団体(団体)	8,022 147	8,800 200	年 150 人増として設定 年 10 団体増として設定
③	(アンケート) 環境保全活動に参加した ことがある割合(%) ・市民 ・事業者	16.6 27.0	28 40	基準値+参加したいと回答 した市民(事業者)のうち、 H25 年目標: 25%が参加 H30 年目標: 50%が参加



(指標・目標の状況)

指標 No.	H20	H21	H22	H23	H24	中間目標 達成状況
① こどもエコクラブ	5.4	2.7	41	35	44.4	AA
② ・登録者数 ・登録団体	8,103 159	8,000 172	7,286 166	7,291 169	7,383 181	C B
③ 環境保全活動に参加 したことがある割合 ・市民 ・事業者	16.6 27.0 (H19)	— —	— —	— —	13.3 33.9 (H25)	C B

市民評価



B

市民評価（意見・提案）

《評価できる点》

- こどもエコクラブが増えて、次世代の環境意識の向上が期待できる。
- 身近な自然のなかで生き物に触れ、自然の大切さを体で感じることできる自然観察会などのイベントに多くの市民が参加している。

《今後の課題及び期待したい点》

- アダプトプログラムの登録数が減少しているため、環境学習に重点を置いた市民の環境意識向上に努める。
- 地域や事業者での清掃活動やリサイクル活動なども重要な環境活動であるとの意識づけを行うことにより、参加者の増加が見込まれる。
- 地域や学校、コミュニティ運営に携わる人などに、半田市が目指す持続可能な社会とは何であるか共通理解を図る必要がある。そのための、幅広い学びの機会と、実践事例の紹介やネットワークの構築の中心となるべく専任部署を整備する。
- 博物館を持続発展教育の学びの場所として整備する。
- 小中学校では、田植え稲刈り体験や近年減りつつある潮干狩り遠足など、自然体験型の環境学習機会を拡充するべきである。また、それらの環境学習をサポートするために地域の学校支援員の確保や環境 NPO とのコーディネートを市が積極的に行うべきである。
- 小学生の夏休みの課題として環境家計簿を提出させるなど、次世代を担う子供たちへ環境学習の推進を図るべきである。

注2) アダプトプログラム（クリーンボランティア）：道路や公園等の公共施設を「自分の子供の面倒をみるように、愛情を持って清掃、美化する」という活動。アダプトとは「養子縁組をする」という意味である。

2. 長期目標と今後の方向性

1) 長期目標の検討

長期目標は、当初 17 項目 30 指標（再掲含む。）を設定していましたが、5年目を迎え、策定時からの環境状況の変化や目標値に対する事業の進捗状況が徐々に明確になってきている中、関係所管課、策定委員会の意見を聴取しつつ、長期目標の再検討を行いました。中間目標値を大幅に達成している指標については、長期目標値の見直しや新たな指標に切り替えることとし、長期目標の達成が難しい指標については、適正な値となるよう見直しました。

なお、光化学オキシダントの指標については、全国的に環境基準が達成されておらず、市の対策の余地がないため、長期目標から除外することとしました。今回の見直しでは、後期5年間は全 19 項目 32 指標（再掲含む。）を施策の進捗を見る指標・目標と定め、確実な目標達成に向けて主体別取組みを進めていきます。

2) 各主体別取組みにおける今後の方向性

当初に掲げた 111 に渡る主体別取組み（再掲含む。）は、従来の環境分野だけではなく、広範囲にわたり、建設、教育、農林水産などの分野においても、従来からの目的に加え、環境への配慮や積極的な環境創造が重要視されており、それぞれの多面的な要素として、環境とのつながりを意識しながら事業の展開を図ってきました。計画の中間見直しに伴い、策定時からの環境状況の変化や目標の達成状況、アンケート調査結果を踏まえたうえで、各主体別取組みの実施内容の見直しや今後の方向性について検討した結果、114 の主体別取組み（再掲含む。）を進めていくことになりました。

◎事業の方向性分類表

方向性名称	方向性の内容	成果
拡充	今後目的を達成するため、事業の拡充を図る。	
継続	今後目的を達成するため、現状を維持しながら事業を継続実施する。	
縮小	事業の目的をある程度達成したため、事業を縮小する。	
終了	事業の目的を達成または終期到来のため、事業を終了する。	—
新規	今後目的を達成するため、新たな事業を展開する。	—

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

「大気や水質などを良好な状態に維持することで、人の健康や生活環境の保全を図り、市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。」

■ 施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	現状値 (H24)	長期目標 (H30)	備考
①	大気汚染に係る環境基準達成率(%)				全測定地点のうち、環境基準を達成している測定地点の割合。
	・二酸化硫黄	100	100	100	
	・二酸化窒素	100	100	100	
	・浮遊粒子状物質	75	100	100	
	・ダイオキシン類	100	100	100	
②	河川のBOD濃度(mg/ℓ)				環境基準(5mg/ℓ)が適用されるのは阿久比川のみであるが、他の河川も環境基準を目標とする。
	・神戸川	7.6	8.8	5.0	
	・矢勝川	6.8	8.2	5.0	
	・阿久比川	2.5	2.0	基準値維持	
	・十ヶ川	2.0	1.9	基準値維持	
	・稗田川	11.1	9.7	5.0	
③	公共下水道(%)				住民基本台帳はH25から外国人登録人口を含む。
	・人口普及率	75.7	84.2	91	
	・整備率(市街化区域内)	75.8	82.9	100	
④	(アンケート) 悪臭がなく空気がきれいと思う市民の割合(%)	42.2	51.2 (H25)	80	畜産糞尿から起因する臭気の軽減対策を拡充する。

■ 施策の展開

1. ひとにやさしいまち	所管課	今後の方向性	
1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保			
1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。			
●大気・水質・騒音・振動・地盤沈下(地下水位)の定期環境監視	環境課	継続	
●環境保全協定の締結	環境課	継続	
●協定締結工場等への立入調査	環境課	継続	
1-1-2 ため池の水質改善を図ります。			
●ため池の水質調査	環境課	継続	
●自然環境に配慮したため池の整備	農務課	継続	

工場等の立入調査

市内のため池

1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。

●河川・海域の水質調査	環境課	継続	 市内の河川
●自然環境に配慮した川づくり	土木課	継続	
●公共下水道整備及び接続率向上	下水道課	継続	
●下水道整備区域外の合併浄化槽の普及促進・適正管理	クリーンセンター	継続	

1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

●畜産農家の臭気対策への支援	農務課 環境課	拡充	 畜産
●臭気監視・指導	農務課 環境課	拡充	

1-2 快適な市民生活環境の確保

1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。

●名鉄河和線の鉄道高架化 (一般国道247号踏切除去事業)	土木課	継続	 名鉄河和線の鉄道高架化
●JR武豊線の鉄道高架化	市街地整備課	継続	
●半田常滑線の整備 (半田常滑線(昭和橋から臨港道路)都市計画道路整備事業)	土木課	終了	
●パークアンドライド ^{注3)} の推進	防災交通課	継続	

1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。

●JR半田駅周辺土地区画整理	市街地整備課	継続	 JR半田駅周辺
●乙川中部土地区画整理	市街地整備課	継続	

1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対応を図ります。

●屋外燃焼行為に対する指導	環境課	継続	 ポイ捨て防止の啓発
●空き地等の雑草繁茂に対する指導	環境課	継続	
●飼犬等のふん害に対する指導	環境課	継続	

注3) パークアンドライド：自宅から自家用車を運転し、最寄りの駅・バス停まで行き、その周辺に駐車して鉄道・バスへ乗り継ぎ、目的地等へ向かう移動形態。

2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

「温室効果ガスの排出を抑制するとともに、ごみ減量・リサイクル等により環境への負荷を低減し、持続可能なまちづくりを進めます。」

■施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	現状値 (H24)	長期目標 (H30)	備考
①	1世帯当たりの年間使用量 ・電気(kWh) ・都市ガス(m ³)	5,780 408 (H18)	5,436 405 (H23)	5,200 390 (H29)	
②	環境配慮型住宅用設備の 導入件数(累計数) ・太陽光発電システム ・高効率給湯器	305 1,636	1,428 5,071	2,400 7,000	年200件の増加を見込む。 年400件の増加を見込む。
③	家庭部門CO ₂ 排出量(千トンCO ₂)	171	189 (H23)	185	※新規 現状値から2%削減
④	市民1人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日) ・総ごみ量 ・生活系ごみ量	1,090 676	992 599	915 542	ごみ排出量/(人口・ 365日) ※新規
⑤	リサイクル率(%)	20.3	24.1	30	総資源化量/ごみ排出量
⑥	エコ事業所登録数(累計数)	—	89	300	※新規(H24事業開始)
⑦	エコファミリー登録世帯数(累計数)	—	515	2,500	※新規(H24事業開始)

■施策の展開

2. 地球にやさしいまち		所管課	今後の 方向性
2-1 温室効果ガス排出量の削減			
2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。			
●地球温暖化対策地域推進計画の推進	環境課	継続	
2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。			
●環境配慮協定の締結	環境課	継続	
●エネルギー資源としての地域バイオマスの活用	農務課 環境課	拡充	



2-1-3 運輸部門での対策を推進します。

●公共交通機関の利用促進	企画課	継続
●パークアンドライドの推進	防災交通課	継続
●交通手段をかしこく使い分けるライフスタイルの推進(エコビリティライフ) ^{注4)}	企画課	継続
●エコドライブの促進	環境課	継続



エコドライブ講習会

2-1-4 家庭部門での対策を推進します。

●エコライフの啓発	環境課	拡充
●レジ袋の削減	クリーンセンター	継続
●環境配慮型住宅用設備の導入促進	環境課	継続



太陽光発電システム

2-1-5 市（行政）において率先して行動します。

●市率先行動計画（はんだエコアクション ^{注5)} ）の推進	環境課	継続
●新庁舎建設における環境配慮	総務課	継続
●上水道増圧ポンプ場の廃止	上水道課	継続
●公共施設への緑のカーテンの設置	環境課	継続
●太陽光発電事業による再生可能エネルギーの促進	クリーンセンター	新規
●市防犯灯の全LED化	防災交通課	新規

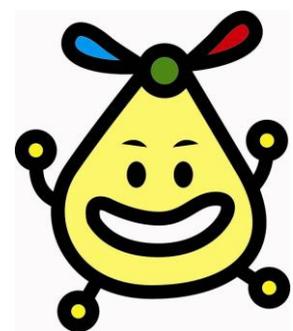


緑のカーテン

2-2 資源循環型社会の構築

2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。

●家庭ごみ減量の啓発	クリーンセンター	拡充
●レジ袋の削減	クリーンセンター	継続
●家庭ごみの有料化	クリーンセンター	継続
●事業系一般廃棄物の減量	クリーンセンター	継続
●環境配慮協定の締結	環境課	継続



ごみ減量キャラクター わけるくん

注4) エコビリティライフ：エコロジー（環境）の「エコ」と移動の「モビリティ」、生活の「ライフ」をつなげた言葉で、自動車と電車・バス等の公共交通、自転車、徒歩などを使い分けて、環境にやさしい交通手段を利用するライフスタイルのこと。

注5) はんだエコアクション：市の事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出量抑制等のための措置に関する計画。

2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。

●分別収集品目の拡大	クリーンセンター	拡充
●市民参加によるリユース・リサイクルの推進	クリーンセンター	拡充
●バイオディーゼル燃料の利用促進	クリーンセンター	縮小
●エネルギー資源としての地域バイオマス活用	農務課 環境課	拡充



空き缶等の中間処理

2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。

●ごみ処理広域施設の建設	クリーンセンター	継続
●広域によるごみの適正処理の推進	クリーンセンター	継続
●ごみ分別の啓発・指導	クリーンセンター	拡充
●不法投棄への対策	クリーンセンター	継続



クリーンセンター(ごみピット)

2-3 環境に配慮した事業活動の展開

2-3-1 環境マネジメントシステムの導入を図ります。

●環境マネジメントシステムの導入支援	環境課	継続
●指名競争入札業者選定時の優遇措置	総務課	継続

2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。

●事業者が行うリスクコミュニケーションへの支援	環境課	継続
●リスクコミュニケーションセミナーの開催	環境課	継続



リスクコミュニケーションセミナー

2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。

●環境に関する講習会の開催	環境課	継続
●中小企業等への簡易版環境マネジメントシステムの導入支援	環境課	継続



講習会

3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

「河川・ため池・農地など身近な自然環境を保全することで、生物の多様性及び生態系の適正な維持を図り、自然と共生するまちづくりを進めます。」

■施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	現状値 (H24)	長期目標 (H30)	備考
①	1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	6.2	7.0	
②	耕作放棄地の面積(ha)	48.2 (H20)	29.3	25	
③	市民農園の面積(m ²)	9,550	26,297	現状値維持	

■施策の展開

3. 自然にやさしいまち	所管課	今後の方向性	
3-1 うるおいのある緑・水空間の整備			
3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。			
●緑の基本計画の改定・推進	都市計画課	継続	 <p>親水性河川</p>
●七本木池の公園整備	都市計画課	継続	
●雁宿公園の再整備	都市計画課	新規	
●親水性を考慮した河川・ため池の整備	市街地整備課 土木課 農務課	継続	
●自然環境に配慮した新美南吉記念館の整備	博物館	継続	
●緑の保全・地域緑化の推進	都市計画課	継続	
●野外活動センターの利用促進	スポーツ課	継続	

3-2 生物多様性の保全			
3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。			
●水生生物の調査	環境課	拡充	 <p>自然観察会</p>
●稀少野生動植物の調査	環境課	拡充	
●自然観察会の開催	環境課	継続	
●緑の保全・地域緑化の推進	都市計画課	継続	
●生物が生息しやすい河川・ため池整備	土木課 農務課	継続	
●環境マップの作成	環境課	継続	
3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。			
●特定外来生物の調査	環境課	拡充	 <p>アカミミガメ</p>
●特定外来生物への対策	環境課	継続	
3-3 環境面からの農業振興			
3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。			
●優良農地の確保	農務課	継続	 <p>田園風景</p>
●地域における農地等の環境保全の推進	農務課	継続	
●環境保全型農業の推進	農務課	継続	
3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。			
●市民農園の推進	農務課	継続	
●耕作放棄地の解消と活用	農務課	継続	
3-3-3 地産地消を推進します。			
●食育の推進	農務課	継続	
●学校給食への地元農産物の使用	学校給食センター	継続	
●地元農産物の直売	商工観光課 農務課	継続	

4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

「地域の歴史的・文化的環境資源を保全・継承し、美しく半田らしい景観の整備を図ることで、歴史や文化を大切にすまちづくりを進めます。」

■施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	現状値 (H24)	長期目標 (H30)	備考
①	(アンケート) まち並みがよく調和していると思う 市民の割合(%)	31.7	41.1 (H25)	50	
②	※再掲 1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	6.2	7.0	

■施策の展開

4. ふるさとにやさしいまち	所管課	今後の 方向性	
4-1 美しく半田らしい景観の整備			
4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。			
●景観計画の推進	都市計画課	継続	 <p>半田運河</p>
●景観意識の啓発	都市計画課	継続	
●半田運河周辺の景観整備	都市計画課	継続	
●違反屋外広告物の除却	都市計画課	継続	
●ごみ散乱防止の推進	環境課	継続	

4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承			
4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。			
<ul style="list-style-type: none"> ●環境に配慮したはんだ山車まつりの開催 ●半田運河周辺の景観整備 ●自然環境に配慮した新美南吉記念館・南吉ゆかりの地の整備 ●半田赤レンガ建物の整備 ●文化財の保存 	商工観光課	継続	 <p>半田赤レンガ建物</p>
	都市計画課	継続	
	博物館	継続	
	企画課	拡充	
	生涯学習課	継続	
4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備			
4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。			
<ul style="list-style-type: none"> ●公園の改修・管理 ●七本木池の公園整備 ●雁宿公園の再整備 ●市民等による公共施設美化の推進 	都市計画課	継続	 <p>雁宿公園</p>
	都市計画課	継続	
	都市計画課	新規	
	市民協働課	継続	
4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。			
<ul style="list-style-type: none"> ●JR半田駅周辺土地区画整理 ●JR武豊線の鉄道高架化 ●環境に配慮した中心市街地の活性化の推進 	市街地整備課	継続	 <p>中心市街地（知多半田駅前）</p>
	市街地整備課	継続	
	商工観光課	継続	

5. みんなで環境を守り育てるまち

「各主体が良好なパートナーシップを形成し、環境学習や環境保全活動への参加・協働を通じて、みんなが環境を守り育てるまちづくりを進めます。」

■施策の進捗を見る指標・目標

No.	指標名	基準値 (H19)	現状値 (H24)	長期目標 (H30)	備考
①	環境学習イベントの参加人数(人)	239 (H21)	538	600	
②	アダプトプログラム ・登録者数(人) ・登録団体(団体)	8,022 147	7,383 181	8,500 250	
③	(アンケート) 環境保全活動に参加したことがある割合(%) ・市民 ・事業者	16.6 27.0	13.3 33.9 (H25)	40 50	現状値+参加したいが活動がわからないと回答した市民(事業者)を取込む。

■施策の展開

5. 参加・協働のまち	所管課	今後の方向性	
5-1 環境学習の推進			
5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。			
<ul style="list-style-type: none"> ●市民等が参加しやすい環境学習体系の構築 ●こどもエコクラブ活動の充実 ●親子エコライフ教室の開催 ●環境保全活動への参加 ●環境学習情報の発信 	環境課 環境課 環境課 環境課 環境課	拡充 継続 継続 継続 継続	 <p>こどもエコクラブ地域交流会</p>
5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。			
<ul style="list-style-type: none"> ●地域の素材を活かした環境学習 ●小中学校における環境マネジメントシステムの導入 ●稲作・酪農体験 ●企業支援による環境学習 	環境課 環境課 学校教育課 農務課 環境課	拡充 継続 継続 継続	 <p>稲作体験</p>

5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。

●環境学習指導者養成講習会の開催	環境課	拡充
●教職員への研修	学校教育課	継続
●人材（環境学習指導者等）の活用	環境課	拡充



地元の方と一緒に環境学習

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。

●企業やNPO等と連携した環境活動の実施	環境課	継続
●環境基本計画の進行管理	環境課	継続



環境パートナーシップ会議推進部会

5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。

●環境情報の発信	環境課	継続
●情報交換会の開催	環境課	継続



駅前環境フェスティバル

5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。

●市民活動への支援	市民協働課	継続
●環境施策の公募	環境課	継続
●環境保全活動への表彰	環境課	継続
●市民等による公共施設美化の推進	市民協働課	継続



水辺のクリーンボランティア

3. 重点施策

1) 重点施策の考え方

本計画においては、基本理念の下に5つの柱を掲げ、総合的な施策を展開していきますが、目標の達成に向け計画を推進していくために「重点施策」を選定し、これらの取組みを核として推進しています。

- 半田市の現状や市民の関心の高さなどから、早急に取組みが必要な施策・・・ A
- 国・県においても重要課題とされており、市としても取組みが必要な施策・・・ B
- 他の取組みへの波及効果の高いリーディングプロジェクト的な施策・・・・・・ C
- 市民・事業者・行政の協働によって一層の成果が得られる施策・・・・・・ D

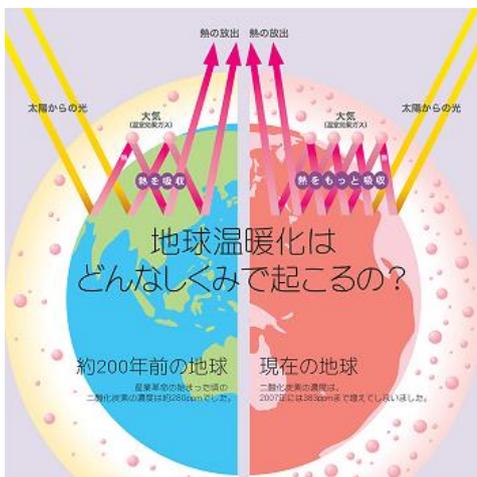
2) 重点施策の設定

計画全体の先導的かつ重点的な役割を担う施策として、以下の6つの重点施策を設定しています。

重点施策・具体的な取組み	選定項目	事業の対象主体			
		市民	NPO等	事業者	行政
重点施策1 地球温暖化対策の推進 ●地球温暖化対策地域推進計画の推進 ●環境配慮型住宅用設備の導入促進 ●エコライフの啓発	A・B・C	◎	○	○	○
重点施策2 3Rの推進 ●家庭ごみ減量の啓発 ●レジ袋の削減 ●市民参加によるリユース・リサイクルの推進	A・B・D	◎		○	○
重点施策3 広域的なごみ処理の推進 ●ごみ処理広域施設の建設 ●広域によるごみの適正処理の推進	A・B				◎

<p>重点施策4</p> <p>事業活動に伴う環境負荷の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境保全協定の締結 ●環境配慮協定の締結 ●中小企業等への簡易版環境マネジメントシステムの導入支援 	B・D		◎	◎
<p>重点施策5</p> <p>畜産業の臭気対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●畜産農家の臭気対策への支援 ●臭気監視・指導 	A		◎	○
<p>重点施策6</p> <p>協働による環境学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民が参加しやすい環境学習体系の構築 ●こどもエコクラブ活動の充実 ●地域の素材を活かした環境学習 	C・D	◎	○	○

◎：事業の対象主体として中心的な役割 ○：事業の対象主体として協力的な役割



温室効果ガスと地球温暖化メカニズム
 全国地球温暖化防止活動推進センター
 ウェブサイト(<http://www.jccca.org/>)より



工場等の立入調査



クリーンセンター



畜産



環境教室